



令和2年度 【12月号】  
上之郷中学校だより

《学校の教育目標》  
自ら求め鍛え合う



【特集】

合唱祭に向けて

ジェットコースター出発！ (修学旅行)

修学旅行(3年生)

## “気の置けない仲間”へと変化

帰りのバスの中。

音楽に合わせて誰かが手拍子を始める。一人、また、一人とその手拍子に合わせて手拍子の輪が広がっていく。ついには、バス全体に響き渡るボディパーカッション状態に。

コロナの影響で声は出せら

れないけど、心はだんだん一つになっていく。どの顔もみな笑顔、そして、充実感に満ちている。

「ずっと楽しみだった修学旅行だけれど、本当にすぐ過ぎてしまいました。心から楽しかったと思えるし、この仲間とずっと一緒にいたいなと思いました。」

どこか我慢していたり、無理していたり、遠慮したりするのではない、誰もが安心して自分の言いたいことを言える“気の置けない仲間”へと、どうしたら楽しめるかを考え、いっぱい会話をし、いろいろな乗り物に乗ったり、見たりする中で変化しました。



プロがすぐ横で歌ってくれたのでプロの音量を肌で感じました

## 体がぞわっとしました

10月28日(水), びわ湖ホール声楽アンサンブルの歌手8名とピアニストによる公演が行われました。

「僕は、体がぞわっとするほど、美しく、きれいで迫力のある歌を聴いて、感動しました。」

「一つ一つ歌のイメージや歌詞に合わせて歌い方が変わっていて、心のこめ方でこんなに変わるんだと思いました。音程、音量、ハーモニー、響きなど大切なことはたくさんありましたが、今日合唱に一番大切なのは、気持ちではないかと考えました。」

生徒たちは、プロの歌声による本物の芸術に触れることを通して、感動を得ると同時に、聴いている人に感動を与えるには何が大切かをつかむことができました。

### びわ湖ホール声楽アンサンブル公演

この公演の後半、曲のイメージを膨らませ、聴いている人に情景が伝わるようにするためにどのように歌うとよいのかをアドバイスしていただくとともに、生徒たちと歌手と一緒に歌いました。

「歌詞を漢字にして、思い浮かべて歌うように意識したら、感情のをせながら楽しく歌えました。」

「自分の中の殻が破れた気がして、すごく歌っていて気持ちよかった。」  
「この仲間と合唱をする機会は少ないので、一つ一つの時間を大切に、全てにおいて、心をこめて相手に気持ちを伝えたいです。」

自分たちの合唱の質の高まりを感じるのと同時に、合唱祭に向けて気持ちを高めることができました。

## 【特集】 合唱祭に向けて

# 合唱。これだけしまってもおかしいだから、今でき

びわ湖ホール声楽アンサンブル公演が終わり、本格的に動き始めた合唱祭に向けての取組。毎日、朝の会や帰りの会の時間を使って合唱練習が行われています。毎週1回、昼休みに各学年のパートリーダーが集まり、練習状況を交流し、課題を明らかにして、それを克服するための具体的な手立てを考え、合唱の質を高めるための努力を積み重ねています。

でも、コロナの波が…。

これだけ頑張ってきたのだ。何が何でもやりたい。でも、中止になってしまうかもしれない…。

そんな中、3年生が動きました。

### まず、私たち3年生が歌います

全校練習が終わりかけようとしていたある日、3年生が全校に訴えました。

みんな、毎日合唱祭を盛り上げようと練習をしています。でも、コロナ感染者がすごく増えていて、いつ練習がストップしてもおかしくないし、合唱祭がなくなってしまう可能性だってあります。

だから、いつ中止になっても悔いが残らないように、全校が今よりもっと全力で力を合わせて頑張っていくようにしなくては、という思いがあります。

そこで、私たち3年生が手本になるよう今から全校合唱曲を歌います。

全校に自分たちの思いをどう伝えるのか何度も話し合い、こうして言葉と自分たちの姿で伝えることにしたのです。



びわ湖ホール声楽アンサンブル公演の様子(文化庁の事業)